

地方六団体による民主党への申し入れについての共同記者会見概要

- 【日 時】 平成21年9月9日（水）17：08 ～ 17：34
- 【場 所】 都道府県会館6階 全国知事会知事室
- 【出席者】 麻生全国知事会会長
金子全国都道府県議会議長会会長
森全国市長会会長
野村全国町村議会議長会会長
中川全国知事会事務総長

（事務局）

ただいまから、地方六団体代表による共同記者会見を始めさせていただきます。本日は、都合により市議長会及び町村会が欠席です。本日の配付資料は、お手元の「国民生活の向上と安心を目指した国と地方の協議の早期開始について」です。

それでは、麻生会長からお願いいたします。

（麻生全国知事会会長）

午後4時30分から、約30分間、（民主党本部で）鳩山代表と菅代表代行にお会いすることができました。そして、我々からは、皆様にお配りしていますが国と地方の協議を早期に開始していただきたいということを申し上げました。それと同時に、今回の民主党の政策、これは地域主権であるという非常に強い分権の考え方でした。これを実現するというのでやっていただきたいし、この考え方はかねて地方も一致して求めていったものだし、また、思いきった分権をして、地域主権型の社会を作っていくということによって、地方のいろいろな創意工夫、活力を引き出さなければ日本は国民生活の向上とか安心、あるいはバランスの取れたものがないんだと、というような事を申し上げました。（民主党と地方六団体は）基本的な考え方、方向は一致しているのだから、その方向で建設的な協議をしていきたい。

また、現実の問題として雇用情勢、地域の経済状況は非常に悪いという中にあります。特に補正予算の問題を始め、大いに急いで協議をしなければいけない事項もありますから、早急に協議の開始を行いたいという話しをしました。

鳩山代表からは、国と地方の協議は明確にマニフェストで約束してきたことであり、これは国民との契約であるから実現いたします。その場合に、協議の場の設置のための法律を作るということには中身の検討がありますから、時間がかかる。法制化を待つて協議をするのではなくて、実際の協議を早速始めるべきであるということについては、そのとおりである。そういうふうにしてやっていきたいということでした。

後は、各団体の会長から話しを行いましたから、それぞれから報告いただきましょう。

（森全国市長会会長）

今、麻生会長が言われたことに、ほぼ尽きておりますが、多少補足しますと菅代表代行からは、明治維新以来のパラダイムシフトを行うのだから、地方の意見を聞いて、実情に合った政策を作

っていくことが、我々の理念だとおっしゃっていただきましたので、そういう意味では今日伺った意義はあったのだと思います。いろいろ意見を聞くときにむしろ積極的に、前向きな提案もいただきたいとの趣旨のことをおっしゃったように思います。良い内容だと思います。

今日は具体的な話までいっていませんから、今日我々が伺った趣旨は、十分に伝わったのではないのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

今日は形式的には、いろいろな閣僚の任命も行われていないというお話でしたが、政策のことについての総合的な推進の中心は菅代表代行であるということをおっしゃられました。菅代表代行は国と地方の協議をやるけれども、その場合には大きく2つの範疇があると。

一つは、非常に現実的な地方行政を推進するに当たっての諸課題を具体的な話し合いをしなければいけないということがあるけれども、同時に民主党が目指しているのは、まさに明治維新です。明治維新以来の逆の、明治は中央集権だったけれども、今回の民主党は地域主権でやっていくという逆の改革をやるんだと。

従って、大きな変更をどのようにやればいいのかというようなことについて、国の形を基本的に変えるということについても、地方側はきちっとした意見を出してもらいたいというようなことで、この2つの側面が大事なんだということであり、我々も個別の単純な制度も大事ですが、分権型社会を作るという目標がありますが、それを実際に話し合って実現しようということですから、おおいにその点もやりましょうということでお話をしております。

(野村全国町村議会議長会会長)

今日の目的は、国と地方の協議の場を早々に開いていただきたいという申し入れですが、充分聞き入れていただいたと思っております。特に今回の選挙を通じて、中央集権型から地域主権へ移るわけですが、そのためには、どうしてもやはり地方の声をしっかり聞いていただき、我々、町村議会としても、町村に対して十分に配慮していただかないと当然やっていけないことばかりですので、求めて行く機会のきっかけになったと、思っております。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

6月議会、9月議会も各県、市町村始まりつつありますが、補正予算に対する対応で非常に我々も苦慮しております。見直すんだというようなメッセージが送られてきていますが、何をどうすると具体的なものは、まだありません。

そういう中で地方自治、大変混迷をするのではと、非常に苦慮している。そこら辺についても早い時期に協議の場で、いろいろとお話をしていただきたい。そして、我々からも現実に沿った意見を申し上げたいということをおっしゃってくださいました。そのためには、早い時期の協議機関の立ち上げを、組閣後にはしていただきたいということで話しをさせていただきましたが、地方自治も苦勞しているんだけど、我々も実際、苦勞しているということで具体的な話はありませんでした。具体的な制度設計を進める上における苦勞というのが少しかわられたのかなと思っております。

いずれにしても、協議の場を立ち上げることによって、そこら辺は双方すり合わせをしながら

良い形での制度設計になればと願っています。

< 質疑応答 >

(記者)

今回、要項の中にも補正予算の部分があって、民主党が見直しについて言及しているのですが、今日のやりとりの中で、具体的に地方に配分されている基金も含めて地方に関係する補正予算をどうしていくかという言及はどちらかでありましたか。

(麻生全国知事会会長)

これは我々の方から、補正予算は議会の議決も済んで具体的に実行している最中なんだと。この取り扱いいかんによっては、非常に大きな混乱になってしまうという現場がありますので、従いまして現場の意見をよく聞いた形で、これは行うべきであるし、特に山本全国町村会会長から混乱するようなことはさせないでくれということ強く申し上げました。これについて、菅代表代行は、そういう点もよく考えながらやっていくけれども、まだ現実的に内部で正式という形になっていないけれども、内々に検討はしているということであって、内閣が発足したら正式にやっていきたいと思っているということでした。

菅代表代行は、地方の意見をよく聴きながらということに力点を置きながら話しをされましたが、最後の方で鳩山代表がそうはいっても政権交代したのだから、今のままではいかなのだというもおっしゃられていました。

それで、我々は特に金子全国都道府県議会議長会会長がもう来週にでも協議を開始しようじゃないかと、来週はいくらなんでも早過ぎるというようなことだったですか。

(森全国市長会会長)

裏を返せば、再来週にはという感じもあったでしょうか。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

連休返上でやったらどうだということを行った。

(麻生全国知事会会長)

内閣を今から作っていくので、担当なり、体制がまだはっきりできないんだと菅代表代行はおっしゃられていました。

(記者)

早急に国と地方の協議の場を設置して欲しいということですが、一回目の協議の場では、具体的に地方六団体ではどういったことをテーマにしていきますか。

(麻生全国知事会会長)

今日の菅代表代行の話しでは、個別具体的な協議、今問題になっている焦点の協議も大事だけ

ども、そもそも今後どのように国の形を変えていくんだと。大きな枠組みの協議から出発すべきであるというような話しもありました。

従って、どのようなテーマ設定でやっていくかということについては、ちょっと良く話し合いをしなければ、明確に申し上げられる段階ではありません。

(記者)

質問が2つあります。1つが先ほどおっしゃいました鳩山代表が今のままではいけないということに対する麻生会長の考えと、民主党が掲げている暫定税率の廃止によって、その分、地方税収がその分減ることになりますが、それに対してどのような考えをお持ちかと、今日の話しの中で、暫定税率の話が出てきたのでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

第1点は、そのとおりでしょう。全く前政権のままではいかなのだというのはそのとおりだと思います。そうだけれども、具体的にどうしていくのかということについて言うならば、現に補正予算ですから、急いでやって景気その他、雇用対策やっていくんだということでやっていますから、相当進んでいます。そういう現実をよく見ないといけないし、政策については、どうしてもやっていかなくてはいけないという政策が多々あって、それをやっているわけですから、中身を見ながら判断すべきであるというふうに思います。

第2番目の暫定税率の話は、あまり話題になっていません。この暫定税率、我々の地方税です。暫定税率を廃止した場合は当然、地方税収の減になるということですが。従来のルールからいうと、それは減収補てんのための財政措置がとられるということです。そうでなければ、どんどんやめて地方の税収ががたがたになって手当ができないとなると、全く我々は行政運営ができなくなりますから、そのようなことの話合いをきちっとしなければいけない。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

そこら辺は、協議機関を立ち上げて個々の協議となると思うのですが、地方六団体としては、当初予算、補正予算も残すところあと半年しかありませんので、議会の議決も得て計画を具体化し、進めるものは進めているという段階においては、支障のないようにさせていただきたい。本音はそう思っています。

しかし、政権が代わったのだから、何か変えるということでしたら、そういうことでしょうか、変える部分については、我々と現場の執行団体としっかり意見交換をする中で、合意されたものについてやって下さいと。早くその場を作って欲しい。一方的に国もやれないでしょうから。

(野村全国町村議会議長会会長)

暫定税率は、町村議会議長会としては地方にとってはどうしても必要な道路もありますし、また、維持・管理費も必要だということで、常にこれは維持していただきたいという申し入れはしてあります。

しかしながら、先ほど麻生会長が言われたように、本日はそこまで検討していないので、これからは協議の場を経て、取り組んでいく問題ではないかと思います。

(記者)

補正予算について、地方六団体側は地方の実情を踏まえてやってほしいということですが、鳩山代表は本当に必要なものにやっていくんだと言ったと思うのですが、そこら辺で、地方六団体と温度差があると思うのですがいかがでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

それは、今申し上げたとおりです。政権交代をしたので前の政権どおりというわけにはいきませんよというその気持ちは、鳩山代表はかなり強いと思います。ただ、現実にはどの部分をどんなふうにしていくんだということになると、これはやはり実態をよく見た形でやらなければ大混乱に陥ります。それに特に心配なのは、雇用情勢がどんどん悪くなっています。景気がよくなっているように言うけれども我々の地方の実態から言うと、よくなってないんです。そういう状況で、よほどこの問題の取り扱いについて、考え抜いてやっていかなければ雇用情勢をまた悪くしてしまうのではないかとということもありますから、そういう実態をよく考えてやろうじゃありませんかということを申し上げました。頭から何も変えてはいけない、今のままだと、我々言っているわけではありません。

(記者)

国と地方の協議の場のテーマについては、個別的な協議よりも国の形を変えるような、地域主権国家を作るための方策を議論するんだということでしたが、今後、補正予算の議論を先行させたりとやや温度差があると思うのですがいかがでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

補正予算の話は、地方はどんどん走っていますから、補正予算の取り扱いについてもっと明確になっていないと地方は仕事をやれなくなりますから、非常に時間的には急いでやっていかなくてははいけない。

国の在り方というのはもちろんありますから、それはそれで大いにやっていきますし、特に国と地方の役割分担の点は、非常に問題ですから、それはそれでやっていくということです。

(森全国市長会会長)

菅代表代行は、国の骨格とかそういう所に非常に強い思い入れがあるという印象を受けました。だからと言って、現実的な問題を無視するとか協議しないでやるという意味ではないという感触を私は持ちました。

菅代表代行の持ち味であります、そもそも論が非常に強く出た発言だったのではないかと。鳩山代表がおっしゃったことも、我々と対立するかたちで考えておられる印象は持ちませんでした。

要は、地方六団体とガチンコということではなくて、話し合いながら良い方向に持っていきたいというような感じを私は受けました。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

新しい国づくりに地方の声をしっかり教えて欲しいと。

(森全国市長会会長)

むしろ良い政策を実施していくために良い意見を聞きたいと本音でおっしゃったような感じを受けました。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

野党の時代のようにはいかない。

(森全国市長会会長)

非常に真摯に受け止めていたと思います。ただ、まだ各論にはまだ入っていません。

(記者)

法制化の前の協議の場ですが、今月中には1回目が開かれる見通しがあるということでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

こちらから、来週にも。来週が難しければ、金子議長が連休中というようなことを言いましたが、それについて明確にいつ頃という話までは至りませんでした。

(森全国市長会会長)

今週中にと強く言ったら、今週は難しいとのことでしたから、場合によっては再来週はいいのかとたまたみ込めばよかったのですが、そこまで言っていません。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

まだ、内閣も出来ていない。

(森全国市長会会長)

我々としては、良い感触を得ました。

(記者)

法制化前の協議にしていきたいというのは、鳩山代表の方ですか。

(麻生全国知事会会長)

鳩山代表も言いましたが、私も念を押しました。協議というよりも法定化されなければ協議をできないわけではない、また、法定化にあたってどんな枠組みをつくるかも当然、法律に基づかないけれども、当然やっていきます。それで、まずやりましょうと。

(記者)

政権交代の中で議会の長期間運営することについての影響や、今後の対応の変化はいかがでしょうか。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

県議会は、会派が構成された中で議会運営が行われていますから、すぐ政権が代わったから混乱するということは予想しておりません。どの党に所属しても、地方の抱えてる課題については共通の思いを持っていますから、政党の立場を超えて、地方自治体という立場で共通の課題を共有していますので、そういう混乱を直ちに起こすということはないと思っております。

(野村全国町村議会議長会会長)

町村議会ですが、特に以前のような政党や会派はないので、政権が代わっても直接の影響は多分無いだろうと思います。

(記者)

補正予算について、鳩山代表が地域にメリットがある形で予算を組みたいとおっしゃったように聞こえたんですが。

(麻生全国知事会会長)

そういう発言ありました。

(金子全国都道府県議会議長会会長)

メリットのある方向でと言っていた。

(記者)

補正の一部凍結の中で、地方の方に影響が及ぶことを若干ほめかしているというふうにとれますか。

(麻生全国知事会会長)

鳩山代表は全く同じという訳にはいけませんよと言っている。我々は、地域の実態をよく見た格好で判断しなければ大混乱に陥るし、いろいろ景気問題、雇用問題ありますから、そこはよく地方のことも考えながらやりましょうと。

いずれにしても、地域のメリットになるような方向で考えていかななくてはいけない。

(記者)

見直すにしてもお互いによく協議をして、やっていくという方向性で一致したということでしょうか。

(麻生全国知事会会長)

そうです。

－以上－